

## 第3回

# 立川市長期総合計画審議会

令和5年12月4日

立川市総合政策部企画政策課

### 第3回立川市長期総合計画審議会会議録

開催日時 令和5年12月4日（月曜日） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所 立川市役所 209会議室

出席者 [委員] 朝日ちさと（会長）、松浦司（副会長）、芦澤清八、片岡滋、川口哲生、甲野毅、小林優貴、篠原俊博、田所佳洋、辻本愛子、長井琢英、西内絵梨子、平澤豊、福永毅、萬田和正、宮本直樹、森林育代、大塚正也（敬称略）

[事務局] 渡貫泰央（企画政策課長）、矢島和晴（企画政策課連携推進係長）、齋藤安則（企画政策課基地対策係長）、夏目互（企画政策課主査）、中野利佳（企画政策課）

(朝日会長)

本日は皆様お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

第3回立川市長期総合計画審議会を開会いたします。

本日の次第は、お手元にありますとおり、審議事項3件を予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、まずは、本日の進め方について、早速ですが、事務局から御説明をお願いできればと思います。

(渡貫企画政策課長)

こんばんは。よろしく願いいたします。先日、市民ワークショップのほう御参加いただきまして、ありがとうございました。

まずは、資料の確認をさせていただきます。今回、資料の6と7を追加しているため、次第を事前送付から差し替えてございますので、御確認をお願いいたします。また、資料1～7のうち、本日机上配付で資料2と6と7を御配付させていただいてございます。また、前回欠席している方、また、市民ワークショップ兼務の方には第2回の審議資料も併せて御配付をさせていただいているところでございます。

不足書類等はございませんでしょうか。よろしいですか。

続きまして、本日の進め方について御説明をさせていただきます。本日配付している資料7を御覧ください。「第3回審議会での議論について」でございます。先ほども会長よりお話がありましたとおり、今回3つの議題となっております。

資料7の一番上、次第1では、まず「市民ワークショップの実施報告」をさせていただき、その後、「市民ワークショップの実施報告」に基づいて、ワークショップの議論の中から「次の10年に生かすべき視点」といったことについて、皆様の御意見を聞いていきたいと思っております。

次第2では、「第4次長期総合計画総括」につきまして御説明をさせていただきまして、その中から「次の10年に向けた市の課題」といったところにつきまして、皆様から随時御意見を御議論いただくところをしていきたいと思っております。

この次第1と次第2を併せまして、今日いただいた意見また議論をまとめまして、第4回審議会ではさらに議論を深めていただくというような回にさせていただこうと思っております。

次第の3につきましては、「第5次長期総合計画の政策体系」といったところで、少し現状のところを改めてまた御説明をしていこうというふうに考えてございます。

進め方につきましては以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

## 議事

### 1 市民ワークショップ実施報告

(朝日会長)

それでは、次第の1、「市民ワークショップの実施報告」について、事務局から説明をお願いいたします。その後、市民ワークショップの意見について、今御説明ありましたように、生かすべき視点、生かすべき事業について議論に入りたいと思っております。お願いいたします。

ます。

**(渡貫企画政策課長)**

こちら資料1と資料2ですが、資料1は前回配ってございまして、資料2のほうを主に使わせていただきます。前回、市民ワークショップのときに参加いただいて、そのときの各A～G班のパネルをまとめさせていただいています。

まず、資料2、12ページは、A班のパネルがございまして、前回、実際に市民ワークショップの方と御意見を交わしていただいて、来場者の方もいろいろ発表を聞いて、いいねといったものにつきましてはシールを貼っていただきました。よりこのシールが多く貼っていたところを御紹介していきます。

まず、A班、10代～20代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「住めば幸せ 来ても幸せ“あの立川”」です。

政策「都市基盤・産業」では取組アイデア、【駐輪場を増やす】【モノレール料金の値下げ】【余裕のある自転車レーン】【ラーメン値下げ】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「行政経営・コミュニティ」では都市像【活気あふれるあの立川と言われるまち】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「環境・安全」では取組アイデア【南口の活発化 駅周辺の警備強化】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「福祉・保健」では都市像【多様性を受け入れるまち】に「いいね」シールが多く貼られていました。取組アイデア【外国ルーツの子ども・家庭への支援】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「子ども・学び・文化」では取組アイデア【学習・自習スペースの確保】【子ども達の遊び場を増やす】といった若者らしいところから、「いいね」シールが多く貼られていました。

続きまして、B班、10代～20代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「とりあえず立川」です。

政策「都市基盤・産業」では取組アイデア【立川でしか体験できないようなイベント】【地域イベントを増やす】に「いいね」シールが多く貼られていました。それをもとに【財源確保】につなげていくといったアイデアに「いいね」シールが多く貼られていました。

続きまして、C班、30代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「だれもが主役 つながるまち 立川ワンダーランド」です。わくわくするというような意味らしいです。

政策「地域・交通」では取組アイデア【市内を行き交う新しい移動方法】【祭りがつなぐ新旧住民の輪】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「情報」では都市像【知りたい！が届くまち】に「いいね」シールが多く貼られていました。取組アイデア、【市民と行政が一緒になって情報を届ける仕組み、『くるりんフォ』】【転入届の提出と同時にダウンロードできる市民専用アプリ】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「子育て・福祉」では取組アイデア【誰もが子育てをシェアできる仕組み】に「いいね」シールが多く貼られていました。

続きまして、D班、30代～40代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「だ

れもが歩みより つながる いごこちよいまち立川」です。

特に【くるりんアニメ化】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「環境・安全」では取組アイデア【ボールあそびができる公園】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「都市基盤・産業」では都市像【コンビニエント・ファームシティ】、取組アイデア【駅と農地を結ぶ交通網】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「コミュニティ」では取組アイデア【市のホームページをもっと活用して誰もが必要な情報とつながりやすくする】【メタバースの利用】に「いいね」シールが多く貼られていました。

続きまして、E班、40代～50代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが、「みらいのたねが育ち 豊かでワクワクする可能性に挑戦できる立川」です。

政策「環境・安全」では取組アイデア【畑を守る】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「都市基盤・産業」では取組アイデア【多摩川キャンプ場（サウナ）】に「いいね」のシールが多く貼られていました。

政策「子ども・学び・文化」では取組アイデア【子ども真中アクション】【不登校でも居場所あり】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「福祉・保健」では取組アイデア【Fem - Wellnessアプリ】に「いいね」シールが多く貼られていました。

続きまして、F班、60代～70代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「なつかしくて あたらしくて やさしいまち立川」です。

政策「子ども・学び・文化」では都市像【子どもが第一のまち】に「いいね」シールが多く貼られていました。取組アイデア【遊び場】【プレーパーク】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「都市基盤・産業」では取組アイデア【多機能モビリティシステム】【デマンドタクシー】【自宅から駅の移動手段】に「いいね」シールが多く貼られていました。

最後に、G班、70～80代のグループです。将来像としてのキャッチフレーズが「心豊かな住みつけたい魅力ある発展するまち立川」です。

木の上のほうにあるのは、【防災アドバイザー制度の創設】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「福祉・保健」では、【高齢者・障害者「見守りサポーター」の設置】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「コミュニティ」では、【コミュニティの危機、自治体離れ】に「いいね」シールが多く貼られていました。

政策「都市基盤・産業」では、【再生可能なエネルギーの利用】に「いいね」シールが多く貼られていました。

資料2の1ページ目～11ページ目までは、各班の感想の付箋の記載を箇条書で書かせていただきました。御参考にいただけたらと思っております。

前回の審議会のときに、篠原委員から外国人の人口推移というお話がありましたが、資料6で立川市の外国人人口推移をつけさせていただいております。

説明は以上となります。

今後の議論につきましては、今、第4次総合計画は5つの分野でやってございますので、議論の進め方としては、一旦は5つの政策分野ごとに区切って議論をいただけると漏れないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

それでは、前回、委員の皆様には市民ワークショップ報告会に御参加をいただき、そして、参加者の方々と意見交換をしていただいたところになります。

その後、私は不在でしたが、審議会では、市内の交通や高齢社会の移動手手段、地域コミュニティの重要性、それから、環境をはじめとした持続可能性の視点が無い、欠けている、それから、市と市民の双方向のコミュニケーションが求められていることなどといった御意見があったというふうにお伺いしております。

改めて、市民ワークショップの内容から生かすべき意見、生かすべき事業という形で御発言をいただければと思います。

本日ですが、事務局から御説明がありましたとおり、現行の第4次長期総合計画の政策分野が、例えば、「子ども・学び・文化」とか、政策分野ごとに行いたいということで、順次、それぞれの政策分野ごとに御意見をお伺いしていくという形にしたいと思っております。

本日、議題が3つもあります。若干1つ1つの政策分野についての時間が短くなりますので、御意見を言っていたかと同時に、もし今日発言できなかったとか、後でもう少し意見を聞いて言いたいことがありましたら、この会議の後、メールなりお電話なりで事務局のほうにお伝えいただければというふうにあらかじめ申し上げさせていただきます。そこで、また次回に生かす形だと思っております。

もう一つ、議事録作成の関係上、発言の際にお名前を冒頭に言っていただければと思います。

それでは、始めたいと思っております。5つの分野の中で、一番初めに、「子ども・学び・文化」の分野について御意見を願います。福永委員、お願いいたします。

**(福永委員)**

福永です。よろしく願いいたします。

子どもの育成から青少年、小中高まで非常に幅が広くて、そのターゲットをどこに絞っているのかというのが、非常に漠然とした内容で終わっているところが多いのかなという気がしました。

機会をつくるというのがA班にありました。その機会とは要するに物なのか人なのかという質問をさせていただきましたが、そこまで具体的には考えていらっしやなくて、物をつくってほしい。箱であり広場でありというのは、いろいろな班が取り上げてはいました。多分これから絞られていくんだと思いますが、子育てと青少年のくくりというのは同列に考えていかなきゃいけないのではないのかなと思います。じゃあどうするというのは、まだ分かりません。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。子どもという子育ても入ってきて、子育ての班もいろいろありましたし、あと、若い人のところがどちらかというと、先ほどもありましたが、機会、場所、居場所づくりということですね。今言及していただいたところですね。その形は

どうあれ、子育て、青年と一緒に考えていく必要があるだろうという御意見でした。

関連する御意見はありますか。辻本委員、お願いいたします。

**(辻本委員)**

辻本です。よろしくをお願いいたします。

前回、自己紹介をさせていただいたときにお話ししましたが、子どもの権利に関する委員会に弁護士会のほうでずっと所属して活動しておりますものですから、今回の発表の中で、子ども、子育てとか子どもの学びというところについてはすごく興味があるなと思って拝見させていただいていました。

先ほどの箱をつくるとか機会とか、そういうものをつくるというお話がありましたけれども、箱的などころで言うと、やっぱり皆さん取り上げていらっしゃる、ボール遊びができるとか、安心して遊べる場所が欲しいとか、そういうところというのは取り上げていらっしゃる方も多かったなと思っていて。私自身も子育て世代、自分自身が子育て世代だということもありまして、子どもが安心して遊べる、大人に怒られないで遊べる場所とかがすごく少ないのかなという部分もあるんですよね。騒いじゃいけないとか、ボールで遊んじゃいけないとか。

じゃあ、公園をどんなふうに活用したらいいんだろうというところは、なかなか難しいところがあると思うので、その辺りで、子どもたち自身が楽しく安全に遊べる場所というのを大人が確保していけたらいいんじゃないかなというところは1つあるかなと思いました。

それと別に、学びの視点からいろいろお書きになっていらっしゃる班もあったんですが、その中で、寺子屋的なものをもっと増やしていきたいとかという形で書いていらっしゃる班がありまして。E班だと思います。不登校支援だとか、あと、不登校支援だけではなくて、貧困世帯の就学というところで活用できるのではないかなと思うのですが、公民館を活用したそういう学習支援のような場を提供していけないか。

今実際にやっているところもあるからというところで、それを広げていけないかというお話もありましたし、実際今やっているところに資金を投入していけるのであれば、より拡充してやっていけるということも思いますし、そういうところというのは非常にいい視点なのではないかというふうに思いまして。

多分、不登校児童・生徒さんは立川市も一定割合多いのではないかなというところがありますので、そこに対する支援というのは、やっぱりよくよく考えていかないといけないところだというふうに思います。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。最初のほうの公園の話なんかは、話合いの中でも結構出ていました。公園のルールの見直しですかね。そういったお話も出ていましたし。あと、学びと絡めての御質問、ありがとうございます。不登校であったり、包摂的な学びの場ですね。これは機会とハードの両方にまたがる話かと思います。ありがとうございます。

ほかにございますか。長井委員、お願いいたします。

**(長井委員)**

長井です。よろしくをお願いいたします。

立川は、特に学びに関して言うと、通信制の学校や専門学校がかなり多く存在しているかなという感じは受けます。そういうところとつなげていくなり、いろいろな勉強の仕方

があると思うんですけども、そういう箱も当然必要だと思うんです。そういう意味では、基本的に箱はあまり賛成ではないですが、そういう箱は必要かなと思います。

それはなぜかという、大人の人が出て、ちゃんと見守っている場で安心して勉強できるということとかがやっぱり欲しい。できれば、そういうところと、いろいろ悩む時期でもあるので、そういう人たちをつなげていく、どこかほかの団体とつなげていくようなところを部署として持ってもらおうとすごくうれしかなという感じは受けます。

例えば、批判するわけではないですが、JRあたり、ボックスで15分借りられたりとか30分借りられたりするボックスがあって、そこで勉強できたりするんですけども、それは確かにハードでやったりしますが、それも実際どうなのかなという感じがあるので、その辺は考えていて。ただ、市側がつくってしまうと介入してしまうので、学校自体の存在意義を問われてしまうので、あまり深入りはできないと思いますが、そういうのもあってもいいのかな。

さっき遊びのほうで、公園のルールという話が出ていたと思いますが、例えば、昭和記念公園であれば、ボール遊びができたりします。ただ、昭和記念公園指定のちょっと柔らかいボールを開発なさってやっているの、なるべくならやらせてあげたいので、そういう物的な分野でも少し考えていったらいいのかなというふうな意見はあります。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。専門学校の話とかは、先ほど公民館の話がありましたけれども、民間とかいろいろな主体が関わるといってお話も入ってくるのかもしれないです。ありがとうございます。

それでは、次に移ります。2番目は「環境・安全」の分野です。こちらは前回、先ほど申し上げたように、持続可能性とかいわゆる環境というところは少なかったというような話が前回あったようですが、「環境・安全」という分野について御意見を改めて伺えればと思います。甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

甲野です。よろしく申し上げます。

私が少ないと指摘しましたが、「環境・安全」に触れているところがあるんです。G班です。ここだけが「環境・防災」のところで、ほかの班が結構、自然との共生とか、そういったものを挙げている中で、G班だけが唯一、「緑豊かで、災害に強いまち」というのを政策で挙げています。

災害に強いってどういうことかという、地震もあり、そして豪雨、要するに集中豪雨ですね。集中豪雨はなぜ起きているか。昨今非常に起きていますね。集中豪雨、気候変動ですね。温暖化の影響ということ。そこに関連して、ここが唯一再生可能なエネルギーの利用ということをしっかり掲げているので、ぜひこれは次の施策の中から当然出てくるかと思いますが、再生可能エネルギーのさらなる推進というのを施策の中に取り組んでいただきたいと思って提言させていただきます。

(朝日会長)

ありがとうございます。環境と災害とつながるところですし、エネルギーにもつながりますし、そういう視点を持っているG班の意見じゃないかということでした。ありがとうございます。

森林委員、お願いいたします。

(森林委員)

森林です。

今の御意見ですけれども、私はE班でやっていましたが、恐らく防災は「都市基盤・産業」分野とかで挙がってきていたのかなという気がして、ほかの班でもそういった意見があったかもしれないので、もうちょっと防災とかというのは都市の在り方というところにも関わってくると思うので、そこでも出てくるのかなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。分野は分かれていますけれども、次につながる話だよということですね。ありがとうございます。

(平澤委員)

平澤です。

パネルを見る限りでは、防災に関しては、「都市基盤・産業」とかその辺で意見が出てないですね。今おっしゃったように、G班が重点的に意見を出されている。

(朝日会長)

ありがとうございます。私も印象としては、もっと出るかと思ったら、メインで出ていたのはG班で、あとは、おっしゃったように「都市基盤・産業」のところなんかで併せて議論されていたのかと思いますけれども、明示的に環境とつながってというような話は、確かにちょっと少なかったかなと思います。

(平澤委員)

E班で、「残堀川と昭和用水の合流点に逆流防止水門を設置」とありますけれども、これも若干それに関連するのかなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。私もちょっと質問しました。ちゃんと具体的な箇所で言及していただいていたね。ありがとうございます。

(芦澤委員)

芦澤です。

立川というのは、山があるわけでもなく、海があるわけでもないので、地域的な問題で災害ってないんじゃないのかという認識があるのかなと思います。おとし、多摩川が氾濫するしないということでちょっと避難騒ぎがありました。残堀川でも集中豪雨がれば川の水位は大分上がりますので、そういう意味で、啓蒙といいますか、どこでも、都心でも災害があるんだよということを含めて、これから先の防災の一環としても取り入れて、小学校低学年から、災害があり得るということは付け加えていければいいのではないかと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。

(萬田委員)

自治会連合会の会長の萬田と申します。

ただいま、「環境・安全」ということで、G班の政策「環境・防災」、都市像「緑豊かで災害に強い町」、また、「首都直下型地震や集中豪雨に備える防災対策の強化」が提案されておりまして、私も自治会の者としていたしましては、安全・安心で明るく住みよい地域づく

りに努めているところでございまして、それとまた、災害に強いまちづくりに協力している。近年、地震、台風、また豪雨災害が毎年日本の各地どこかで多発しているという状況の中で、災害はいつでもどこでも起こり得るといふ、そういう認識を持って災害に備えていくということをいつもお願いしているところでございます。

やはりこの災害に強い町ということは大切なことではないかなということで、「心豊かな住みつけたい魅力ある発展するまち立川」のG班について、この提案が非常に私としてはいい提案だと、こういうふうに感じています。

(朝日会長)

ありがとうございます。雨の降り方も随分変わってくるというふうに言われていますね。御指摘ありがとうございます。

片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

片岡です。

先ほどから出ているG班の災害に強い町ということですが、住宅密集地が駅前のほうにあって、細い道だと消防車が入れないような道もあると思うんです。そういったところを地域でどうしていくか。道の確保、急にはちょっと無理ですけども、そういうのも考えられます。

実際地震が起きて傷病者がたくさん出た場合、立川に大きな病院が大体5つぐらいあります。共済病院、災害医療センター、川野病院、立川中央病院、立川相互病院、その門前に緊急医療救護所を設置するという事をやっております。そういった災害救護所の支援というのは市として必要だと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。災害のところで御指摘ですね。あと、道路の話はまた先ほどの話につながりますけれども、基盤の話にもつながりますね。ありがとうございます。

(事務局)

1個だけ補足させていただきます。資料2の16ページのE班のパネル、上下が切れていますが、文字が小さかったので、ここを強調させていただいてまして、上下を見たい場合は、資料1のほうのE班を見ていただくと、先ほど御紹介した将来像とかは見られますので。申し訳ございません。

(朝日会長)

ありがとうございます。

それでは、次が「都市基盤・産業」の分野でお願いをいたします。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

川口でございます。

2点ありまして、1つは、C班、F班で出ています。市内における交通の在り方がテーマになっています。どういうふうにそれを意味づけていくのか。高齢化とか交通弱者が出てくる中で、細かいモビリティのニーズをつくっていくのか、あるいは、昭和記念公園を絡ませた観光というふうにしてもっと町の活性化につなげていくのか、いろいろな切り口があると思いますけれども、既存の大動脈に絡める毛細血管としてのモビリティみたいなことはすごくあるんですけれども、いろいろな形でオンデマンド、ライドシェアみたいな

もの、実証実験まで来そうなところ、そういうところはどういう意味合いを持ってそれを許可するのかというのは、もう少しテーマをどこに置くのかというのは取り上げてもいいのかなと思います。

それと、E班が書かれている「創業するなら立川」は、結局、第4次長期総合計画において、その基盤となっているのは人口減のピークはもう来るところですけれども、結局、社会増があってピークを後ろに下げているというのは、ここに流入してくる層があり、また、コロナ後の立川の中で、都心に依存しない雇用をここで生むことの意味というのは非常に大きくなってくると思います。

人口減をもちろん意識するけれども、そのピークを逃がしつつ、市を維持していくためという意味も含めて、雇用を生む、創業を生む、しかも、ここは小口、女性、若者、シニアというところでの創業意欲というのは極めて高いですから、創業をサポートするシステムは必要かなと思います。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。マイクロモビリティだったりラストワンマイルだったり、そっちの交通の中身の話、確かに、いろいろなところで言われているのはそちら方面のお話が多かったように思います。ありがとうございます。それから、あと創業、雇用の話ですね。そこは大事という御意見でした。あと、ポテンシャルもありますと。

**(川口委員)**

それに絡むのは、一番初めに戻って「子ども・学び」で、仕事と子育ての両立の意味合いももう一回ひも解く必要があるとは思いますが。

**(朝日会長)**

つながりますね。ありがとうございます。

ほかに関連してなり何かございますか。

萬田委員、お願いいたします。

**(萬田委員)**

A班の「住めば幸せ 来ても幸せ“あの立川”」という中で、「都市基盤・産業」で、その中の市内飲食店利用者クーポンの発行ということで、私もこのパネルのところでも御説明をしたんですけれども、当連合会では災害に強い地域づくりのために絆カードというのを発行いたしまして、市内の約130の店舗でお食事やお買物ができるといって、総務大臣からも表彰された大変先進的な活動を今実施しているところでもございまして、さらにその充実を図っていくということで立川市のほうにもお願いをしているところでもございます。

こういうことによって地域のつながりというものが強くなるということもございまして、この提案については、私もそのときに大変いい提案ですということでこの提案者に話をしたところでもございます。

以上です。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。A班ですね。中心に、産業の中でも商業のお話がありまして、そこは大事だと、取組もありますということで、引き続き大事なお話ですということですね。ありがとうございます。

平澤委員、お願いいたします。

**(平澤委員)**

平澤でございます。

A班からしか意見が出てないですが、「余裕のある自転車レーン」というのは、これは私も常々感じておまして、形として自転車レーンはあるけれども、実際車が多くて、こんなところ走れないよというところが多いです。実際にこれが可能であれば、推進していただけたらと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。これはやっぱり若者だし、あと子育て世代もそうでしょうけれども、後づけみたいに、そういう意見は最初のほうからありましたね。ありがとうございます。

長井委員、お願いいたします。

(長井委員)

C班で、「河川のあるアクティブな暮らし」というのがあって、川を使った話というのは何か所かの班で出ていたかなとは思いますが。そういうところを広げることによって商業圏も広がりますし、新しい産業、もともと多摩川はアユを焼いたりしていた産業があったので、そういうことを考えれば、新しい産業というのは、広域になって新しい世界が広がれば出てくるのかなと思っています。

逆に言うと、今度、どういうふうに移動していくんだということで、モノレールとか、特に立川市の場合は、自転車、レンタサイクルもありますし、立飛を中心に電動キックボードも流通させて、新しい交通手段が出ていますので、そういうものを使って、新しく少し広域に開発していけたらいいのかなと。いろいろな話をつなげていくと繋がるのかなと思います。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。やっぱり産業の意味でも、マイクロモビリティだったり、移動をもう少しきめ細かくしていく必要があるのではないかとということですね。ありがとうございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。それでは、次に、4番目になりますが、「福祉・保健」の分野でお願いをいたします。

宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

宮本です。

市民ワークショップのメンバーとしても取り組ませていただいた立場として申し上げます、パネル1枚で発表するのは大変難しくて。

全6回、長時間にわたって、大勢のメンバーで積み重ねた議論をここで表現するのはなかなか難しかった。氷山の一角じゃないですけども、水面下にたくさん大切な議論がございます。当日、説明の中からそれを酌み取って、感想を付箋で書いてくださる方もいて、ちょっとそこを注目したいです。

例えば、5ページに「子育ての悩みなど」というところがあります。これは子育てのこの説明を聞いた感想なのかもしれませんが、「福祉・保健」の分野でもこれはとても重要なことであるおまして、「子育ての悩みなどを相談したり、互いに協力したりできる仕組

みが重要だと感じました」ということで、何でも相談できる、不安解消に向けてというところが「福祉・保健」の分野ではとても大切だと思っております。

また、6ページ、これはD班の説明を聞いての感想ですが、「相互理解を地道に促すことは重要だと思います。ベースに流れる取組としてよい施策ができるとういことです。間断ない取組」と期待していただいている部分でありまして、やはり相互理解を深めていくということは、多様性の時代の中でとても重要かと思っておりますので、生きづらさをいろいろ感じておられる方でも立川に住んでよかったと思ってもらえるような、そういう社会にしていくことが大切だろうと「福祉・保健」の分野では思っております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。パネルの中では一言で済まされていたりする部分について、補足いただきました。また、子育てのところでも、つながるといふところですね。子どもの福祉の話もありますので。ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

(篠原委員)

篠原です。

A班の「福祉・保健」で、都市像「年齢・国籍にとらわれず、多様性を受け入れるまち」ということで、立川市の外国人人口推移、資料6で出させていただいてありがとうございます。

多様性という意味では非常に、立川市はほかの市に比べて割合が多いかといえ、そうではないと思いますが、確実に外国人が増えている。それで分かるのが、単身世帯が増えてきているので、一人暮らしの外国人の方も増えている。そういった方はやっぱり孤立しがちなところが多いので、単身世帯が増えているのと、高齢世帯ですね。そういった方が、例えば、在日の韓国人の方とかも高齢化してきているので、そういった方が孤独感を覚えるとかいうようなことがあると思いますので、子育て、単身、高齢者の世帯、いろいろな方がいらっしゃるといふことを前提に、目配せのできるような社会を立川市としては目指すべきだと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。

松浦委員、お願いいたします。

(松浦副会長)

それに関連して。松浦です。

G班のところ、高年齢者・障害者の見守りサポーターの設置」ということで、今のお話と関連して、外国人もそうですが、全体で日本人も含めて、単身の高年齢者というのは日本全国でも増えていまして、もちろん立川でも増えているというふうに予想されている。

逆に質問という感じではありますが、例えば、見守りのサポーターは、伝統的には民生委員の人の領域だと思っておりますが、今、どのくらい民生委員の人がうまく機能しているのかどうか、人数的にどうなっているのかとか、今ある現行のシステムをうまく活用していくということがいいと思いますが現状はどうなっているのかなというところはちょっと気になりまして。

(朝日会長)

ありがとうございます。これは田所委員。

(田所委員)

民生委員、田所でございます。ちなみに、宮本委員も民生委員で、サポートしていただける。

民生委員の活動というのは、全体でいろいろな行動をすとか、民生委員の制度を説明すとか、ほかのところで民生委員ってこういう組織ですとかとお話しするのは、皆さんに見える格好であると思いますが、一番重要なことは、近所の方と顔と顔を合わせてお話をすという。

実は毎年1回、高齢者の一人暮らしの方にお尋ねして調査をするよという仕組みがあります。その仕組みの中身というのは、何をやりたいかという、民生委員は当然公務員ですし、守秘義務がある。したがって、そこで話したことというのは、実はほとんど皆さんの前で話す格好にならないんです。どこで何があったというのは、民生委員同士で話をし、市の事務局との関係では話をすよということになってはいますが、なかなかその活動というのは、審議会等公の場の中で出てこないというところがあります。

ただ、我々としては、与えられたそれぞれの地域がありますから、その地域の中でどれだけの人とコンタクトを取るか。それだけじゃなくて、一人暮らしだけじゃなくて、最近、当たり前ですが、高齢者の御夫婦のところ、これもなかなか大変です。そこはリストが全部あるわけじゃないですが、ちゃんと拾っていく。要は、地域単位でどれだけ細かく、地道な、歩いていくような格好というのが必要なので。人数的に言うと、今、定員が158名いるんだっけ。ちょっとまだ欠けてはいますが、ほぼ必要な数というところでは進んでいると思います。一応、そんな格好をしています。

皆さん、結果的には、個々人の人が住みやすいという、個の単位で住みやすさというのを皆さん書いておられると思います。そのために、我々民生委員もそういう意味では、大きなくりの中で政策というよりも、むしろもっと地道にやっていくような部分というのが、民生委員だけじゃなくて、これから出てくると思いますけれども、地域福祉コーディネーターって社協さんのところ、ほぼ民生委員と同じような形で、いろいろなつながりをしてくれるような部分で、徐々に人数が増えて、今、12名という格好になっています。

そういうような部分を含めて、そのつながりが少しずつ少しずつ民生委員だけじゃなくて出てきていると思いますが、それでもやっぱり、まだもう片一方で、さっき言っていました、いろいろな地域ごとに違いますが、例えば大型マンション、それからワンルームマンション、立川の地域にそんな人がだんだん増えてくると、ああいう方々はなかなか、昔の個別で顔を知られるという部分ではないような方向にいらっしゃる方が結構多いですよ。意外と入りにくいという部分もあって、若干、対応としては苦労しています。

今、現況で申し上げればそんなところですけども。宮本さん、何か補足があれば。

(宮本委員)

いえいえ、もう十分でございます。今、田所委員が御説明くださったように、民生委員は地味で目立たない、こつこつしたものなので、なかなか大変そうだったので、成り手不足というのは全国的にあるんですが、立川の場合には、今御説明いただいたとおり、非常に充足率が高くて、多摩でも上のほう、東京でも上のほう、もちろん全国的にも上のほう。

おかげさまで、各地域団体でそういう熱い思いのある人、そういう大変なことをやろう

とっておくださる人を紹介していただけていることが大きいと思います。そういう地域団体との連携もうまくいっているのかなと思っております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

各班を見ると、高齢者と子ども、障害者等の支援をしていく、あと、G班のところで医療体制の強化と書かれていまして、多摩・立川保健所の機能強化と充実とありますけれども、保健所だけじゃなく、立川市と保健所と医師会とか連携して情報の共有とか。

それと、ここには書かれてなかったですけども、ポストコロナの医療体制の充実とか、新興感染症対策、サージキャパシティと言いますが、の確立。要するに、急に感染者が増えて病院が逼迫しますよね。そういう病院の人、物の確保ですかね。病床や医師が足りなくなってしまうというようなことにもつながってくると思いますけれども。

以上です。

(朝日会長)

分かりました。ありがとうございます。ここも全部が全部ここでは言及しているわけではないですけども、取り上げていただいてありがとうございます。

ワークショップで、福祉は球出しとしては少なかったようなイメージがあったんですけども、いろいろなところに散りばめられていて、ありがとうございます。大事なところだと思います。

それでは、5番目になります。「行政経営・コミュニティ」について、御意見お願いできればと思います。

甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

こちらのB班の若者たちのグループが非常に面白くて、「地域イベントを増やす」「カフェを増やす」

地域イベントって何ですかと質問しましたが、そのときはフェスですね。いわゆるコンサート。コンサートってどういうコンサートを指しているんですかと質問したら、それこそここに出てこないところを深掘りして聞いたところ、若者たちのフェスというのは昔のコンサートと違って、一方通行じゃなくて交流型。要するに、参加者と提供者と一緒に楽しむイベント。それをやることによって地域を活性化させて、交流人口が生まれる。交流人口というキーワードが出ていなかった。これすごく面白いなど。

立川の良さって何ですかと聞いたら、自然も文化も、最近の新しいGreen Springs。そこで多様なイベントをやることによって地域に人が来て、そして財政基盤も豊かになる。財政基盤までしっかりと言及しているのは、なかなか若者としてはいい意見かなと思いました。

我々の世界、こういうのをエコミュージアムと言って、それぞれの地域の様々な団体がいろいろなことをやることで、それをごった煮にし、まとめることによって、一つのミュージアム、いわゆるアート、箱物はないですけども、ミュージアムと捉えようじゃないかという考えで、もともとはバイエルンから発祥したんですけども、町がうまくいって

いるという事例があります。

立川はそれを環境だけじゃなく自然、文化、様々な視点を取り入れながらやりたいといった若者のプランは非常に面白くて。ぜひこういうことも施策の中に進めていくと、多分、「行政経営・コミュニティ」の31番、「市民活動と地域社会の活性化」というところにつながるのではないかと感じてこの意見を紹介させていただきました。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。イベントは若者らしいなと思ったんですけども、本当にいろいろつながるといえることですね。上の分野にもつながるけれども、そこをつなげていくのは行政経営だろうということですね。ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

**(篠原委員)**

今の御意見とつながるところがありますけれども、「行政経営・コミュニティ」以前は、行政から住民に一方的に情報が伝達されて、それがどう捉えられるかという課題がずっとあったんですが、最近、本当に情報コミュニケーション手段が発達してきたので、御高齢の方もLINEを使っていろいろなコミュニティを持っています。そういう意味では、双方向のコミュニケーションが今可能になっている。

行政だけが情報を提供するのではなくて、コミュニティ、住民から行政に情報提供する。実際そういうようなことがほかの自治体でもあり、例えば、道路に穴が空いていますということや住民が伝えることによって、そこに行政が補修に行くというようなことも実際今やられていますので、そういうことはこれから盛んになってくるだろうと思います。C班とかが言われていましたでしょうか、「くるりんフォ」の話とかですね。情報が知りたい。市民と行政が一緒になって情報を届ける。前回もちょっとお話ししましたがけれども、そういったところをぜひこれから目指すのかなと思います。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。行政とのコミュニケーションですね。媒体もあり、行政のほうも応えていけるようなコミュニケーション手段が育ってきているということで、ここは大事だろうということでした。ありがとうございます。

平澤委員、お願いいたします。

**(平澤委員)**

市の情報ツールの在り方ですね。この間の会議のときにも言いましたけれども、非常に使いにくい。もうちょっと使いやすいやつができないかなと思います。

例えば、コロナの予防注射、ワクチンの予約にしても、めちゃくちゃ不便だったんです。もうちょっと考えてできないかなと思うんですよね。そこら辺はよく考えてつくっていただきたいなと思います。

**(朝日会長)**

情報媒体はいろいろあるけれども、基本のところですね。それは確かにありましたね。ワークショップの話の中でも。ホームページの使い勝手。いろいろなところ、幾つかありますね。多分、指摘されているかと思いますが。

森林委員、お願いいたします。

**(森林委員)**

行政経営ですけど、行政経営、経営って全てをまとめるところが行政経営かなというふ

うに感じていて、私、このワークショップでやった6回、1回3時間ずつぐらい時間をつくって、深めてやってきたんですけども、非常に納得がいかなかったとか腹落ちがしなかったのは、10年前の市の政策に合わせて書いていきましょうという。未来のことを考えるのに、何でまた元に戻って、そこで課題を抽出していくんだらうなというのがずっと腹落ちしていなかったんです。

それをお伝えしたところ、別にそこにこだわらなくてもいいですよといったところだったので、恐らくC班とかもこれどおりにやらずに考えられていたと思うんです。私たちもそんな感じでやって、「環境・安全」とかあったとしても、それよりも都市像のほうに重きを置いて、じゃあ、その都市像に合うような課題って何だろうというふうに考えて出していった形です。

特に私たちのE班というのは、全てがつながっているよねと。さっき先生もおっしゃっていましたが、個別の政策の話をするのではなくて、行政経営というものがあって、どんなまちづくりをしていきたいのかといったところで、じゃあ、こういう施策もあるよねというところを、誰が対象といったら、子どもだったら、子どもは福祉にも学びにも、そして都市基盤にも関わることだしというように、全てがつながっているんじゃないかなというふうに考えるので、またこれを今回、これに合わせて未来の政策をつくっていくのかしらというのが、議題から外れるかもしれないですけども、ワークショップに出て今回の皆さんの御意見を聞いていて思った感想です。

以上です。

(朝日会長)

大事な御意見ありがとうございます。そうですね。よくよく見ると、C班なんかは、「都市基盤・産業」じゃなくて「文化・産業」とかなっているんですね。E班もですが。こうあるべき姿から戻っていただいて考えたときという。

(森林委員)

経営というのは全てに関わる。

(朝日会長)

これで5分野いただいた形になりますので、先ほど言いましたように、もし逃したということがありましたら、ぜひぜひ追加でいただければと思っております。

最後に全体を通して御意見あればということで、今の森林委員の御意見も、行政経営ということで、全体を通しての御意見だったと思いますけれども、全体を通してのコメント、御意見あれば、ほかにあればお願いしたいと思います。

(福永委員)

福永です。全体的に、今いろいろなテーマでお話を聞いていて、私も発表があったものを眺めていたんですけども、常々思っていたのが、いろいろなところで連携とか連動とか協働という言い方が出てくる。今の行政、学校においても地域との連動、家庭、地域、学校というのがトライアングルになった連動になっていますが、それってちょっと違うんじゃないのかなと常に思っていて、学校自体が後ろに下がっているみたいな状態です。

働き方改革とかそういうのも含めて、学校はあまり地域には出てこない。かつ、逆に言えば、地域にやってもらいたいことを学校から依頼するというのが今のスタイルです。地域からお願いしても校庭を使わせてもらえないとかそういう話が、10年前に比べて非常に入ってきます。そこに例えば備品倉庫が置いてあったのが撤去されたり。

そこで考えると、連動とか連携は、例えば、今、子どもに関するところで感じていることを言っていますけれども、福祉であれ何であれ、全て連携、連動というのは、それがどういうふうに広がるというか、つながっているのか。そこには行政で、何かをやろうと思ったときにすぐにネックになるのがやっぱり行政です。それはできません、それはここに言ってください。

例えば、子どもの育成といっても、いろいろな市の中にもグループがあって、我々がやっているところでいけば、市子連とかそういうのもあって、子どもの育成に関わっていますが、ほかのグループでは同じように子どもの育成とか子育てまで含めた中で活動するというものがあったり。別のグループではいろいろな問題について協議がされている。ただ、それは我々には伝わってこないし、同じような活動をしているところがたくさんある。そこが行政を中心に動いているわけですがけれども、そこから横のつながりでなかなか広がっていかない。1つにまとめちゃっていいのかなと思いつつながら。

箱物で話をするとなると、生涯学習のほうに行きなさいいけないとか、今、公園のほうの開設準備室もやっていますが、これは10年やっています。10年やっても、結局なかなか前に進んでいかない。

結局、公園1つをつくるにも、財政的な問題が当然あるのは分かっていますけれども、いわゆる規制的なものというのがどんな活動であっても全て関わってきますので、行政の窓口というのは。先ほどホームページの話もしましたけれども、ちょっと見に行く気はしないですね。立川市のホームページ。そういうことも考えると、連携、連動というキーワード、その中心をなすのが行政なんじゃないかなという気がします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。連携、協働もいろいろキーワードとして出てきますが、その実質化のところの鍵を担うのは、行政のところはかなり課題があるところですね。ありがとうございます。まさに全体に関わる場所ですね。

## 2 第4次長期総合計画総括

(朝日会長)

それでは、早速ですが、次第2のほうに移らせていただきます。こちらは第4次長期総合計画総括について、まずは、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こちら資料4でございます。現在、第4次長期総合計画の最中でございますが、現在までの総括ということで、10年間の総括を行っております。

先ほど、市民ワークショップを通しての課題でございましたが、今回は、行政自身のほうで現在課題であったり方向性をどう考えていくかといったところを少し御紹介させていただいて、それに対して、今後また、引き続き10年後に向けた課題だということについて少し御意見をいただきたいと思っております。

1ページが政策体系とあって、左側が都市像、その右側が政策、施策となっています。前回、前々回もお話しいたしましたが、今、都市像と政策が連動しています。その政策を、都市像を達成する上での手段がこの施策となっています。さらに、その施策の下は、前もお話しいたしましたが、基本事業であったり事務事業というようなことで、今ま

で御意見いただいたところが事務事業単位の話であったりとかそういったところもありますけれども、そういった体系になってございます。

今回の総括のところを少し御紹介させていただきますので、7ページ、8ページをお開きください。上のほうのレーダーチャートあります。「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」というふうに書いてあります。今回37施策ありますけれども、本計画期間は、37の施策のうち30施策で成果指標の目標到達率が80%を超えて、5つの都市像が進展したことによって、将来像である「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」に向けたまちづくりが着実に進みましたと言っております。

当初想定されていなかった新型コロナウイルス感染症の影響に加え、急速なデジタル化、SDGsやカーボンニュートラルの進展、頻発する自然災害など、新たな社会情勢への対応を柔軟かつ機動的に行いつつ、安全・安心な市民生活を基本に各施策を進めましたとしてございます。

その下以降は、今現在進んでいる5つの施策ごとの到達率、96とか92とかありますけれども、その下に評価が書いてございます。その下が課題です。

「子ども・学び・文化」の課題といたしましては、妊娠期から出産、子育てまで、子育て家庭の負担や不安を和らげる施策のほか、学童保育所の待機児解消、保育施設の適正配置、学校教育のICT機器等の効果的な活用、子育て・健康複合施設の効率的・効果的な事業実施等が課題です。また、多文化共生意識の向上や医療、介護、スポーツの連携が課題ですというふうに市としては捉えてございます。

「環境・安全」の課題といたしましては下水道の流域編入後の施設更新が課題です。また、カーボンニュートラルに向け加速した取組が必要です。大規模災害に備えた防災情報の提供や避難行動支援に加え、公共施設のレジリエンス強化が求められています。立川駅周辺の体感治安の向上や自転車関係の交通事故への対応も課題ですとしてございます。

「都市基盤・産業」の課題といたしましては、都市計画道路の進捗や各施策の拠点間を結ぶ有機的なネットワークを模索することや、高齢化に伴う外出困難等の移動課題があります。また、後継者の不在など事業承継に課題を抱える事業者が増えています。都市に残された農地を有効活用し、生産性の向上と経営基盤の強化が課題です。

「福祉・保健」の課題といたしましては、重層的支援体制のさらなる整備とともに、地域福祉計画の着実な推進、支え合いの地域づくりが必要です。高齢化の進展により、介護予防、フレイル予防、認知症への対策が必要です。生活困窮者等への自立支援の取組は引き続きの課題です。介護人材の確保・育成や介護サービス基盤の整備が課題です。

最後に、「行政経営・コミュニティ」の課題といたしましては、出生率の低下に伴う社会構造の変化により、社会保障関係経費や都市インフラ老朽化による将来負担、市税の減少、地域の担い手不足などが課題です。民間活力、広域連携、デジタル化を含めた広域的・効果的な自治体運営や、公共施設の再編、デジタルデバイド対策や多様な性への対応は引き続きの課題です。

これらを一旦、4次を振り返っての行政側の課題として捉えているところでございます。

10ページ以降が施策毎のシートとなっております。これは詳しくまた評価が書いてございます。

特に12ページの下の方、第4次策定時には想定していなかった全国的な社会情勢の影響及び対応ということで、新型コロナウイルスの感染症、また、26ページで生涯学習のほ

うが出ていますけれども、地域人材の不足、32ページでは、ウクライナ情勢、36ページでは、カーボンニュートラルの進展、有機フッ素化合物問題、86ページでは、デジタル化の急速な進展、SDGsの推進。この辺が計画当初10年前には想定していなかった社会情勢及び影響ということも総括してございます。

この課題に沿いまして、引き続き10年後に向けて課題として捉えていったほうがいいと  
いったものについて御意見をまたいただきたいものと、あとは、先ほど言った政策横断的  
な取組であったり、4次長計の中では想定しなかった分野のところについての御意見な  
り議論、また、先ほどの市民ワークショップの議論と重なるところは多いにあるかと思  
いますけれども、まずは、市の評価に基づいて、引き続きの課題として捉えていったほう  
がいいといったことについて御議論をいただきたいというふうに考えさせていただきます。

説明は以上となります。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。こちらはまさに前期の計画に基づいてということなので、その  
分野に、同じように進めていきたいと思えます。

今御説明いただきました評価、そして課題を踏まえまして、引き続き、第5次長期総合  
計画で取り組みたい、取組が必要であると思うことについて、御意見をお願いいたします。  
先ほどと同じように、5つの政策分野ごとに行きたいと思えます。

西内委員、お願いいたします。

**(西内委員)**

西内です。7ページの将来像政策全体総括についての「安全で環境に優しい快適なまち  
の強化」の「見守りメールや警察等と連携したパトロールの実施」とありますけれども、  
これは私も登録していますが、犯罪者とか不審者が出ました、皆さん気をつけてください、  
それで、その後その不審者がどうなったかというのは全然連絡が来ないんです。

これはすごく私の周りの友達もみんな言っているんですけども、その人たちがどうな  
ったのか知りたいんですよね。不安だけ煽って、全然その後のアクションがないというか。  
それをずっと私も思っていたことなので、ここでお聞きしたいなと思っていました。

もう一点、8ページの出生率の低下。立川市として具体策を聞きたいです。出生率が下  
がって、持続可能な町をつくるに当たって、出生率をどうやって上げるのかというのがよ  
く分からない。分かりやすく説明いただけたらと思えます。

**(朝日会長)**

事務局のほうから補足していただけることはありますか。

**(渡貫企画政策課長)**

1つ目の不審者メール云々のてんまつが流れてきませんといったことについて、一次的  
には警察等からいただける情報を二次的に流しているといった現状があるので、その情  
報が来ない限りは、なかなか出していないというのが現状になっています。なので、その  
後、警察から来ない場合については、なかなかうちのほうからどうなっているというこ  
とは出せていないというのが現状でございます。

2つ目の出生率の具体策というのは、まさにそこについては、この議論等で具体策をど  
うしたらいいかという御議論をいただくというのがやっぱり筋だと。市としてはいろいろ、  
事務局としては考えている施策はありますが、まずは、これまでやってきたことについ  
ては、子育て環境を整えるということで、保育園待機児対策をやったり、あとは今、学童に

力を入れるということで、どう子育てをしやすい環境を整えるかということをもまず最初にやっていた。ただ、それだけでも出生率は低下をしてきているので、じゃあ次は何に手を打ったらいいのかというところは、第5次とつながると思っています。

そういった中では、1つは、今回の市長の公約もありますけれども、本当に子どもを産みたい人が産める環境として、不妊治療を補助していったりとか、そういったこともそうですし、あとは、そもそも晩婚化というようなことも非常に課題になっていますので、それは捉えています。

晩婚化に対しては、どうして晩婚化になっているのかということについては、若い世代自体、実は晩婚化に対してあまり危機を持っていないというのがあるので、そこは若い人たちにどういうライフデザインをやっていくのが重要かというようなのも国の中ではあったり、そういったことも今後必要になっていくのかなというふうには思っていますが、そういうところに関して、皆さんの御意見を今後第5次に向けていただけたらと思っています。

以上です。

(芦澤委員)

今の不審者云々の回答ですが、結局、それがコミュニティ不足や、情報発信だとかホームページが見づらいという、要は、警察からの発表、回答がないから出さないじゃなくて、じゃあ何で追わないんだろうとか、やっぱり今言われたように、その後どうなってしまったんだろうと配信した人が思って警察に確認すればいいんじゃないかなど。

それはあまり深掘りしてはいけないんですけれども、一つの策として、何かそれが全部つながってしまっているような。見づらいもそうだし、コミュニティの一つとしては追っていったほうがいいんじゃないかなどか思ったりするので。

(朝日会長)

ありがとうございます。そこはぜひ政策横断と、先ほどと同じですね、行政経営のところに入れていただければと思います。御意見いただいた。

今、お二人御意見いただきましたように、関わられている事業とか御経験の中から、それがどうしたらいいかというところで、ぜひ今のように御意見いただければというふうに思っています。

そうしたら、進め方としては、分野ごとになってしまいましたが、1つずつ行きたいと思います。まず、「子ども・学び・文化」のところで行きたいと思います。

森林さん、お願いいたします。

(森林委員)

施策2、安心して子どもを産み育てることができると感じている市民の割合。これが感想というか、そう思っていますよねというところで100%という成果指標でよろしいのでしょうかというところと。

あと、同じく、施策11の多文化共生の推進のところですが、こちらも外国人にとって暮らしやすい町であると感じている市民の割合というところで、これは外国人の市民が感じているのではなくて、それ以外の市民意識調査をした方の結果ということですよ。それで100%は本当に外国人が住みやすい町なのか。しかも、この下の外国人のための日本語教室の参加者数がとても少ない。半分以上となっているところから、この成果指標の在り方についてちょっと疑問に感じたというところです。

(朝日会長)

分かりました。ありがとうございます。これも整理としては行政経営、やり方の話につながってくところになりますね。そちらの御意見いただいたということで、広く言う行政とのコミュニケーションの話と、あと指標といったところの設定の仕方というような話になるかと思います。

(森林委員)

細かく見ていくと、そんなのがあると思っていて、さっきの市民ワークショップのところでも福祉の分野とかにもいろいろ書いてあったんですけども、当事者から話を聞くという意見が結構ありました。当事者の意見ではなく、どういうところをできたのか、評価しているのかなといったところが疑問に感じたということです。

(朝日会長)

分かりました。これは分野横断ですね。ありがとうございます。そんなところいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

(松浦副会長)

今の話に関連して。市民ワークショップという形で、政策を決めるときに市民の人と行政が協働するという事は非常にいいことだと思って、それは新しい公共とか新しいガバナンスのやり方としてすばらしいなと思いました。

一方で、結果のフィードバックというか、その結果に対してどう評価するかということも、やっぱり市民の人と行政でこんなワークショップみたいな形で、つくるときだけじゃなくて、その結果をどう評価するかということに関しても一緒に考えていくという機会というのが、新しいガバナンスという意味で必要なのかなという印象を受けました。

(朝日会長)

分かりました。ありがとうございます。これも横断、「行政経営・コミュニティ」のところでぜひ反映したいと思います。

(福永委員)

最後のところで、新型コロナウイルス感染症と出てくると思うんですが、細かく言ってしまうと、地域団体ですとか、こちら側にいる皆さんはほとんど地域の団体の方ですけども、地域で今一番困っているのは、活動を再開するとか、じゃあどやって継続しようかというそんな生やさしい問題ではなくて、コロナで崩壊しつつある。考え方がもう変わってきている。3年間何もやらなかったことによって、やらなくても地域は成り立つじゃないかと。学校もそうですよね。地域の協力がなくても成り立つしまうよねというのが、例えば、活動している我々も、何もやらないってこんな楽だったんだねという、そういう気持ちすごく出てきた。それを今、何とかお尻をたたきながら、こういう活動を再開しよう再開しようやっていますけれども、なかなかそこに人がついてこないし、世代交代の問題ですとか、いわゆる持続可能な地域活動といえば、非常にその辺を危惧しています。

ところが、第4次ときの影響は分からないですけども、これから第5次として進めていく場合には、1回振り返ったほうがいいんじゃないのかなという気がします。先ほど森林委員がおっしゃったように、10年前から同じで、ここで、本当に数年間の間に環境はすごく変わっています。我々が関わっている地域コミュニティだけでなく、いろいろな場面で全てにおいて影響が出ているのではないかな。そこは、そうすると、修正なのか

是正をする必要があるのか、ちょっと後戻りをする必要があるのかということ考えたほうがいいのではないかと。

施策的なところになってしまうかとは思いますが、このままば一つと進んでいって、きれいな言葉だけでまとめられないところがたくさんあるので、そこもちょっと拾い上げる必要はあるのではないかと思います。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。最初のほうに例として挙げていただいた担い手の話や地域活動の話というのは、「行政経営・コミュニティ」の分野のところ、課題にも挙げられていますけれども、それとともに、今おっしゃった環境が変わっていることに対する対応ですね。変化に対する対応ということは、御説明だと、全体の計画の想定外のところですね。その御説明のところに対応することかと思えます。

そこにはやはり、今の対応がいろいろと苦慮しているところと、次期に当たっては、次の10年もそういうことが当然起こり得るわけですね。そういった環境変化にどう対応していくかというところの問題提起かと思えます。ありがとうございます。

政策横断的なところは多分どこでも出てくる話なので、そこはもう自由に飛んでいただいてと思います。「子ども・学び・文化」のところ。

辻本委員、お願いします。

**(辻本委員)**

私に関わっている仕事の中で、他市ですが、八王子市さんのほうでスクールロイヤーとして活動しておりまして、そちらのほうで不登校支援ですとかいじめ対策とかというところに力を入れて、学校の御相談を受けたりとかをしているんです。

この施策、もろもろ見せていただくと、不登校支援というか、学校に来られない子どもに対する配慮とかというところについては、これまであまり施策の中に出てなかったのかなというところが少し気になりまして、恐らく不登校児の割合とかは、行政ごとにデータを取って文科に上げていたりというものがあるんじゃないかなというのがあるので、できれば資料として、立川市がどれぐらいの人数で不登校児のお子さんがいらっしゃるという辺りのデータを出していただいて、そういうところにも焦点を当てた形で施策を考えていくというのもありなんじゃないかなと思います。

不登校支援で活動してくださる重要なキーパーソンでスクールソーシャルワーカーという方がいらっしゃるんですけども、多分、立川市はすごく少ないんだと思うんです。八王子だと十何人いらっしゃるって、結構な人数いて、その中で、みんなで地域、区域を持ってそれぞれ活動しながら業務に当たっているようなんですが、その辺りも、スクールソーシャルワーカーの人数とかはどれぐらい置いているかという辺りもデータを出していただいて、少しお話しできたらいいんじゃないかと思いました。

**(朝日会長)**

分かりました。ありがとうございます。

**(田所委員)**

関連して、お子さんの関係も結構よく言われているので。何を言いたいかというと、不登校というくくりというそのものがだんだん、要は、保健室まで行ってみたい人とか、1週間に1回だけ行くとかいろいろなパターンになってきているんです。それぞれの人がそれぞれのところで苦労しているみたいなのところがあって。

不登校というその中身、一律で考えるのではなくて、学校へ行くだけが正解じゃなくて、ほかのところでいろいろなことをやっても全然構わないよ、好きなところへ行ってみたいなことができるようになると、それぞれの個性を生かしたり特徴を生かしたりするような教育、もちろん教育はそうじゃないという部分もあるんだろうけれども、子どもの関係のことを見ていると、そうできない親とお子さんが苦勞するんだったら、そうじゃなくて、それでもいいんだみたいなことができないかなと。

現実にはいろいろな、正直、辻本さんほどじゃないですけども、そういうお子さんとの関わり、親とお子さんと話してみたいなことがあるものですから、もうそういう時代になってもいいのかな。お子さん、親御さんももうちょっと息を吸いながら生活ができるのではないと感じ思っているんですが。

#### (辻本委員)

ありがとうございます。私もまさにそうだなと思っていて、学校に来なきゃいけないというところにとらわれて苦しむのは何か違うんじゃないかなというところはあります。先ほどパネル発表のところでお伝えした、寺子屋活動とかああいうのもいいなというお話をしたんですけども、子どもの居場所をつくるというのはすごくいい活動だなというところがあって、学校にこだわらなくても、どこか行ける場所があって、その子が安心していられる場所があって、学習を受けられる場所があって、そういうところの基盤が整っていくということが大事なんじゃないかなと思うので。

もちろん、どれぐらいいるのか、ソーシャルワーカーをどれぐらい置いているのかとかというところも1つ気になるところではありますが、それ以上に、施策というところを考えるに当たっては、それぐらい学校に来られない、学校という場に来られない子がいるとして、その子たちの受皿としてどんなものが整備できるんだろうというところの話がしていけたらいいんじゃないかというのは、私もすごくそう思います。

#### (朝日会長)

ありがとうございます。さっきのパネルのほうの話とも居場所なんかは共通しますし、あと、ここでも家庭の不安を和らげるというようなところにつながってくるのかもしれないけれども、不登校とかそういうキーワードは挙げないが。文科省も特別扱いをしないと一言いながら、じゃあどうしたらいいのというところは地域に投げられているという感じですよ。

この辺りを一旦課題意識の中で受けられる部分もあるし。例えば、多文化共生なんて、外国人の子どものなんてさっきありましたけれども、そういうことに限らず。多文化という言い方をしていますけれども、ちょっと広げたり、具体的にしていく必要があるのではないかということでした。

宮本委員、お願いします。

#### (宮本委員)

宮本です。25ページのところで、施策8「生涯学習社会の実現」というところがございます。社会教育委員の経験から申し上げたいと思います。

立川では大人が学ぶ環境は結構充実しております、居場所、誰でも学べるというところ、大変充実はしていますが、何が欠けているか、ちょっと遅れているかということをお考えますと、学んだことを地域に生かしていくというところが、本来、「生涯学習から始まるまちづくり」と銘打っていますけれども、その連動性がちょっと弱いと感じています。

学校教育の分野では、子どもたちに立川市民科という、これは特区のような形で正式教科として採用されて、地域を知り、地域を学んで、地域に愛着を持って、地域を支えていく市民性を養うという方向があるわけですが、大人の部分でも立川市民科を推進するような動きをして、地域に愛着を持ち、地域を支えていく市民性を高めていくというような、市民性教育というのか、シティズンシップ・エデュケーションを強く推進していかなければいけない時期なのだろうと思っております。地域での役員などの担い手が少なくなってしまうという現状などを踏まえると、喫緊の課題かなと思います。

以上です。

(朝日会長)

分かりました。ありがとうございます。社会教育、生涯学習のほうの御意見いただきました。少し段階的に考えて、循環していく地域性という形で、その循環していくようなフェーズもあるんじゃないか。

萬田委員、お願いします。

(萬田委員)

「子ども・学び・文化」の10ページに、「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」がございますけれども、今、学校の現状ですが、市内の小学校の中ではPTAも廃止になる、PTAがなくなるという現状がございます。

そういう中で、学校と家庭、地域が連携して、当連合会といたしましては、連携した防災訓練とか防災教育の実施に努めているところでございますけれども、例えば、安全・安心な見守りについても、いろいろな地域団体に御協力をいただいて実施をしているところでございますが、これの連携の強化というのが非常に大事なわけでございます。ところが、コロナによりまして、近年は、少子高齢化や核家族化で社会構造が大きく変化したことによって、地域力が非常に低下している。そういう中で、また今度は、コロナ禍によって、さらに地域のコミュニティが低下しているという、そういう状況がございます。

そういうことによって、PTAも運営ができなくなっているという状況もあるのかなというふうにも感じているところでございますので、この学校・家庭・地域の連携による教育力の向上はやっぱり大切なことではないかなと思っております。このことは、この対応について皆さんの御意見をいただく中で、充実を図っていくという必要ではないかなと思っております。

(朝日会長)

ありがとうございます。評価はそれなりに高い形でありますけれども、先ほどから出ているような環境変化、団体の補完し合ったり代替していかなくちゃいけない変化への対応ということを考えると、引き続きここは非常に大事であろうという御意見です。ありがとうございます。

では、1個ずつという形ではなくて進めたいと思います。どの分野ですと、大体、おおむねどの分野を見てということはいったいだきたいんですけども、そこから自由にお願いできればと思います。いろいろなところが絡んでくるかと思えます。

(宮本委員)

85ページの後期基本的計画の②のところ。「改善や見直しを図られた事務事業割合」というところで、これが令和2年度が38.3%、それ以降大変低い水準で、達成率41%。

これは一体どういうふうにすると、改善は見直しが図られたものということですから、

その逆は、7割ぐらい改善が図られなかったという話に読み取れてしまいますが、どうするところということになるのか教えていただきたいです。そこは、総括と言っている割には、解説文がどこにも見当たらないです。

(朝日会長)

事務局、お願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

これは改善・見直し事務事業評価のときに、改善・見直しをされましたかと各所管課にチェックボックスでやって、改善したものについてどういうふうになったかが、本来ここに来るんですけども、前期のときよりももうちょっとアバウト、本当に小さなことも改善したよという形になってしまう。事務事業自体の事業自体を改善したよという意味合いと、事業の一部の様式を見直したとかいうぐらいのレベル感で前期はあったので、後期のときは、事業自体の制度を改善したよという本来の趣旨に戻したんです。

最初、庁内で所管課と我々と齟齬がありました。前期はそれで行ってしまったので、後期は改めて、事業の改善、事業主体の再構築、事業自体を変えたとか、そういったものの場合については改善してくださいよといったことで数値が一気に下がってきたという、ちょっと認識の差が改善したというところがございます。そこでちょっと変わっています。

(朝日会長)

ありがとうございます。改善の必要性に誠実に対応いただいた結果、数字が落ちてしまったということですね。

(宮本委員)

まだ改革の過渡期だから、今後期待していいということですね。分かりました。ありがとうございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

時間がないのでピンポイントで、35ページの環境ところでございます。この評価のところで、成果、課題目標達成率が90%を超え、施策目的、良好な地球環境、生活環境が云々と、近づきつつありますと書いてありますが、地球環境がよくなっているという書き方になっている。御存じのとおり地球環境はちっともよくなっていない。じゃあ何が達成しているかという、温暖化防止に取り組んでいる市民の割合が、確かにこれは100%達成している。

これは確かなんですけども、要するに、市の設定している目的に、目標に近づいているだけで、地球環境自体はよくなっているわけではないので、こういう書き方をすると、まるでカーボンニュートラルを次やらなくてもいいと、要するに、目標値だけ達成していればいいんだというふうになってしまう。ほかのところにも関わることで、重箱の隅を突いているわけではないですけども、こういったところは少し注意をして、目標達成、要するに、評価というふうにしたほうがいいのではないかと。私も検証しているわけではないですが、ちょっとそこところが目立ったので、指摘をさせていただきます。

もう一点、第4次、想定しなかった社会情勢のところ、みんな新型コロナウイルスの感染症でまとめられていて、実はそうではなくて、いろいろな予想しなかったことがある

と思うんです。例えば、私の分野だと、38ページのところで、ごみ減量・リサイクルの中で、新型コロナと原油価格・物価高騰報道はつい最近の出来事。実はこれ平成27年のときに想定しなかったのは、マイクロプラスチック、最近ではナノプラスチックで、これが要するに人体に及ぼすのではないかとアメリカの論文なんかで発表されていて、分からないですけれども、子どもの出生率にも関わるんじゃないかというデータもあったりします。

そういうことを考えると、これもちゃんとマイクロプラスチック、海洋プラスチック問題も入れなきゃいけないし、例えば、42ページのところも、公園の施策のところも、新型コロナウイルスだけになってしまっていて、やはりこれもカーボンニュートラルにつながるので、地球温暖化というのは、公園というのは多分一つの対応策として、ヒートアイランドの防止だとか非常に寄与するところなので、この辺りもしっかりと押さえた上で、皆さん御存じだと思うんですが、街路樹は非常に温暖化防止に貢献しているんですけれども、市民への理解が浸透していない。

ですから、こういうところを政策のほうできちんとうたっていくべきではないか。私の分野で、時間がない中でピンポイントで指摘させていただきました。よろしくお願いいたします。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。前半は成果の確認の仕方。評価と課題というのがちょっとずれているんですよ。評価は、先ほどおっしゃっていただいたように、設定した目標に対しての話なので、結構達成率はよかったりするんですが、課題のところには所管課の問題意識であったりというのが表れていてというところがありますね。

あと、想定外。これもこの程度だと、社会情勢的に外圧的にあったものとか、それに対して政策的に国とかが対応して、政策的に明らかであったものというのが載っていますが、それぞれの事業施策で足元でもいろいろあるだろうというところがありますよね。そういうところをもうちょっと見るべきじゃないかという御意見ですね。ありがとうございます。

川口委員、お願いいたします。

**(川口委員)**

川口でございます。

森林さんが御指摘だったように、政策とか施策というところの区切り方というのは、それを乗り越えてしまうような問題の立て方というのが必要になると思います。今お話があった35ページ、「持続可能な環境の保全」ですけれども、例えば、CO<sub>2</sub>排出の削減、当然やっていかなきゃいけないんだけど、もっと環境、社会、経済の課題の同時解決みたいなことを図るようなビジネスを生んでいくという産業視点で言うと、そういうフェーズで語るべきところもあるんじゃないか。

例えば、市はそういうビジネスを創出していくことに対しては後押しをするということも、そういう環境の意味では必要になってくるんじゃないかなと思います。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。分野ごとに考えていくのではないだろうというところの問題提起ですね。ありがとうございます。

平澤委員、お願いいたします。

**(平澤委員)**

平澤でございます。

カーボンニュートラルが現在の風潮ですけれども、必ずしもCO<sub>2</sub>が地球温暖化の原因ではないという話もありますので、車を単純にEV化したらいいか、そういうふうに向かわないでほしいです。EV化した後に、そのバッテリーの処理はどうかとかそういったことが非常に問題になっていますし、例えば、既にどこかの役所では、中国のEVの車を単純に導入したとか、そういうもっと国内産業を大事にするようなことをしないということもありますので、その辺は慎重にやっていただきたいと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。多施策というんですかね、他分野に及ぼす影響というのも見えないとおかしなことになってしまうということですね。これも全体に当てはまりますね。環境、典型的ですけれども。

森林委員、ございますか。お願いします。

(森林委員)

私は国立と武蔵村山で男女センターを運営しているので、この81ページの施策32、「男女平等参画社会の推進」についてなんですけれども、男は仕事、女は家庭という古典的な考えを持たない市民の割合というのは昭和な感じがするので、今はもう大体みんなそうだよなと思っているところだと思うので、いかに市の姿勢がまだ昭和な感じなのかなというところをちょっと感じてしまったというところなので。

例えば、そこを求めるんだったら、じゃあ、男性の育休取得率というふうにやったほうが具体的に分かりやすいのかなというところとか、あとは、昭和でいうと、いまだに「女性総合センター」という名前なので、男女平等参画と言っている割に女性センターとなると、男性は自分ごとじゃなくて、男女平等参画は女性マターだと思ってしまっているの、そこが進まない原因になっているかなというところと。

あと、LGBTQプラスへの多様な性への理解の高まりというのもあるんですけれども、もう今、既に男女だけではくくられない世の中になっているのに、ちょっと古いのかなという気もします。そして、東京都もパートナーシップ制度を導入したのに、近隣の市とかも導入しているにも関わらず、立川は頑として取り入れないというふうになっているので、そこが、みんなが集まる先進的なまちづくりというのを打ち出すという割には、ちょっと人権の分野で周回遅れしてしまっているかなという感じがします。

さっきの多文化共生も、外国人問題を文化とくくってしまっていたり、男女平等参画をコミュニティという文脈でくくっていたりとかするので、もっと人権という形でちゃんと取り組んだほうがいいのかと感じました。

(朝日会長)

分かりました。ここは「行政経営・コミュニティ」という話が、そもそもの行政の基本的な姿勢、視点の話ですね。御指摘だったかと思います。先ほどから御指摘が多いですけども、そこが定まらないいろいろなところがふわふわしてしまうというか、分かれたりしてしまうというところがありますね。その御指摘が多いというところになります。

(事務局)

たくさん意見いただきましたので、一旦、次第2はこの辺りにさせていただきます、追加の意見がある場合はメールで送っていただければ、次回の資料を作る際に反映させていただきます。

(朝日会長)

申し訳ないですが、そのようにお願いできればと思います。

### 3 第5次長期総合計画の政策体系

(事務局)

次第の3は、事務局の説明をさせていただければと思います。

(朝日会長)

説明だけ。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こちらについては、政策体系ということで、資料の5になります。こちら先ほどの模造紙に、川口委員から御意見ありましたように、次の第5次の都市像と政策分野とは別に、今の体系をそのまま維持しようというふうに考えてございません。なので、将来像と都市像については、こちらの審議会のほうで答申をいただく予定でございます。あくまで、その都市像を実現していくためにはどういったようなカテゴリーで政策を推し進めていったらいいのかといったところの先ほども御意見もありましたので、次回に向けまして、どういうカテゴリーがいいのか、全くカテゴリーを設けなくて、政策分野だけで、横断的な内容だけでやる、そういったことも含めて御意見いただこうかなと思っております。

ただ、実際には、政策を推し進めていくに当たっては、行政は組織で運営していきますので、計画と組織というのは一致をさせていくというのが原則になってきますので、そこについては、行政のほうもそこはやっていますが、あくまでカテゴリー、分野といったところについては、先ほども議論があったところで対応していただくと我々もありがたいかなと思っております。

最後に、資料の3です。こちらは現在の多摩26市の将来像と都市像を一覧にしたものでございます。上から市政施行順にありますけれども、左が自治体名で、真ん中が将来像で、一番右端が都市像というふうになってございます。都市像につきましては、最終的には市長のほうで決定していく形になりますので、入れていきたいワードについて答申の中では視点であったということをしていきながら、都市像の部分、右側部分を今後第4回、第5回、第6回のところで議論をさらに煮詰めていって、こちらのほうを固めていくというようなニュアンスになっていくと思っております。

今、ほかの自治体を見て、都市像、いろいろありますけれども、3つであったり4つであったりとか、表現も全く違いますが、そういったところを今日いただいた議論を基に第4回、第5回、第6回で煮詰めていけたらと思っております。

説明は以上となります。

(朝日会長)

ありがとうございました。今お話があったようなプロセスで、これから、組織も見据えながらどういう政策、都市像を描いていくかということに進むわけですが、今日、特に次第2のほうの議論は、もともとたたき台である第4次の分野の分け方とか設定自体があまりに変わってしまって、そこから、基本的なところから考えていけないといけないという御意見、御指摘だったのかなと思います。その意味では、今の資料3のところにあった都市像で出てくるようなキーワードにつながる、直結するようなところがあったのかなというふうに思っています。

いろいろと御議論、時間が限られている中、御議論いただきましてありがとうございます。

した。足りない点につきましては、事務局のほうで受け付けて、メールなりお電話なりでいただければと思います。

#### 4 その他

(朝日会長)

それでは、その他を事務局のほうからお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

長時間にわたりまして、御議論ありがとうございました。本日の議論を踏まえまして、事務局で次の10年に必要な視点や課題を、今の御意見を整理させていただきたいと思えます。次回の審議会では、今日の御議論を踏まえた内容を整理したものを、さらに議論を深めて進めていきたいと思っております。

次回は第4回審議会となりますが、1月22日の月曜日。

月曜日の午後7時からの開催となります。会場は本日と同様、立川市役所の2階、209会議室となります。

以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議事は終了いたしました。それでは、第3回立川市長期総合計画審議会を閉会したいと思います。本日は御多用中のところ、活発に御議論いただきありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

— 了 —